

世界図ってなんだ!?

地図が語る世界 Mapping the World

How Maps Reveal Changing Worldviews

東洋文庫ミュージアム

TOYO BUNKO MUSEUM

企画展プレスリリース

会期：2026年10月7日（水）～2027年1月17日（日）

会場：東洋文庫ミュージアム

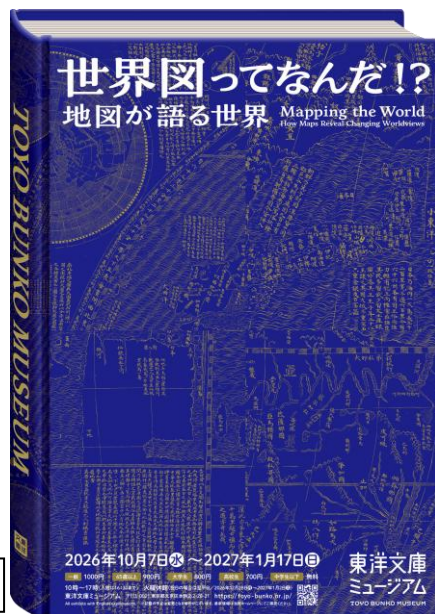
主催：公益財団法人東洋文庫

世界がかつてないほど身近になる一方で、国や文化の違いがあらためて意識される時代を私たちは生きています。そんないまだからこそ、昔の人々はどんな世界を思い描き、未知の世界をどう理解しようとしてきたのか、その出発点に立ち返ってみませんか。

主役は、17世紀初頭に西洋の知識と中国の世界観が融合して生まれた世界図、『坤輿万国全図』です。大規模な修復をほどこし、東洋文庫ミュージアム初公開となるこの地図を軸に、西洋・中国・日本における世界地図の変遷をたどり、地域ごとに異なる「世界との向き合い方」を浮き彫りにします。

過去の地図に描かれた世界が、今の私たちの視点を照らし返すきっかけとなれば幸いです。

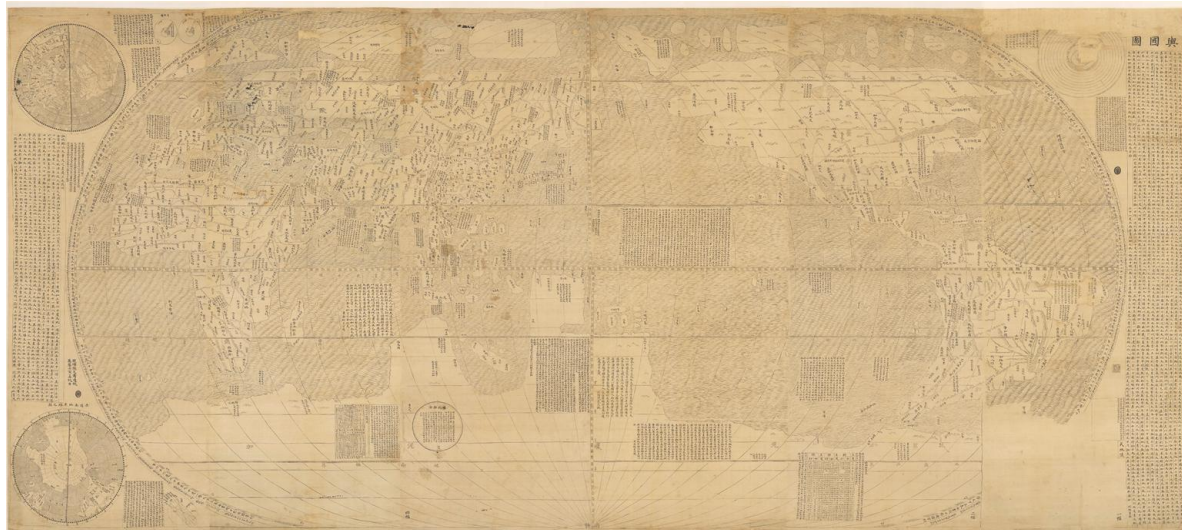
メインビジュアル



みどころ

東洋文庫初公開！『坤輿万国全図』が主役

昨年、大規模な修復を終えた東洋文庫所蔵の貴重資料『坤輿万国全図』（マテオ・リッチ、清代写本）を展示の主役に据えた世界地図展。清朝初期に中国国内で作られた写本は国内唯一の所蔵。そのほか、大型世界地図多数、初展示のものも多数出展。



縦1670mm 横643mm 6幅1対

展示構成

Section 1

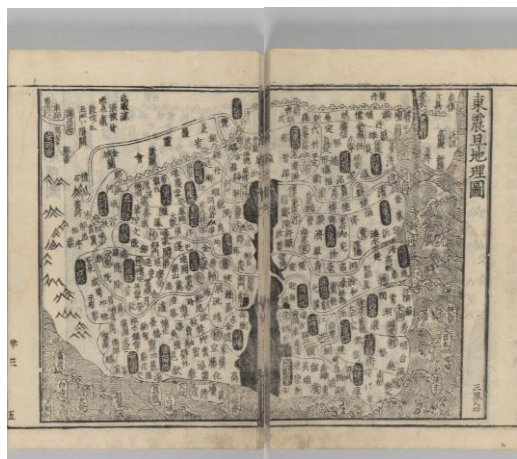
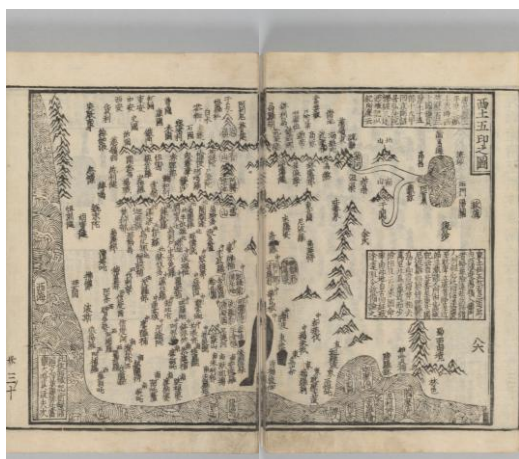
坤輿万国全図以前の世界地図

西洋におけるプトレマイオス（1－2世紀、古代ローマ）や大航海時代（15世紀～）の地図、東洋（仏教圏）の精神的 세계 観。想像と伝聞で描いた初期の世界像をたどる。



I. 『一般地理学』

セバスチャン・ミュンスター編 1545年 バーゼル（スイス）刊
本図は、150年頃にプトレマイオスによって書かれた最古の数理地理学書『地理学』を基に、15世紀に再構成されたものです。世界地図といってもユーラシア大陸の一部しか描かれておらず、当時の「世界」認識がわかります。本書以降、プトレマイオスの地理学は「古代の権威ある正確な地理学書」という位置付けから、「歴史的に」重要な文献へと変化し、世界の地理認識は古代の文献に求めるのではなく、「最新」の「観測」とそれに基づく地図製作こそが重要である、という流れに変わっていきます。



II. 『仏相統紀』 僧・志磐撰 13世紀成立、1682（天和2）年刊 **初出展**

本図は、仏典の世界観に基づく仏教系世界図の一種です。仏教では、人間の住む世界は聖なる山「須弥山」の南に位置する「瞻部洲」であると説明されます。図の「東震旦地理図」には中国が、「西土五印之図」には玄奘の『大唐西域記』の情報をもとにインドが描かれています。中国の南宋に生まれた作者は、インドを世界の中心と捉えつつも、中国をそれに並ぶ大国として描きました。これら2つの図を繋ぎ合わせることで、周囲を海で囲んだ完結した世界像を表現していると考えられます。

Section 2

坤輿万国全図の誕生

マテオ・リッチがもたらした西洋地理学の知識と、中華世界観の融合。本展の主役である『坤輿万国全図』を、詳細解説や他機関所蔵のものとの比較でみていく。



III. 『坤輿万国全図』

マテオ・リッチ 1602年成立、1604以降（清代）写本 **初出展**

太平洋を中心に置いた初めての世界地図。

イエズス会宣教師マテオ・リッチは、1582年のマカオ到着から1610年の北京における客死に至るまでの約30年間に、数度にわたって世界図を作製しています。そのうち、1602年に明代の北京で刊行されたのが『坤輿万国全図』です。

Section 3

日本における受容と展開

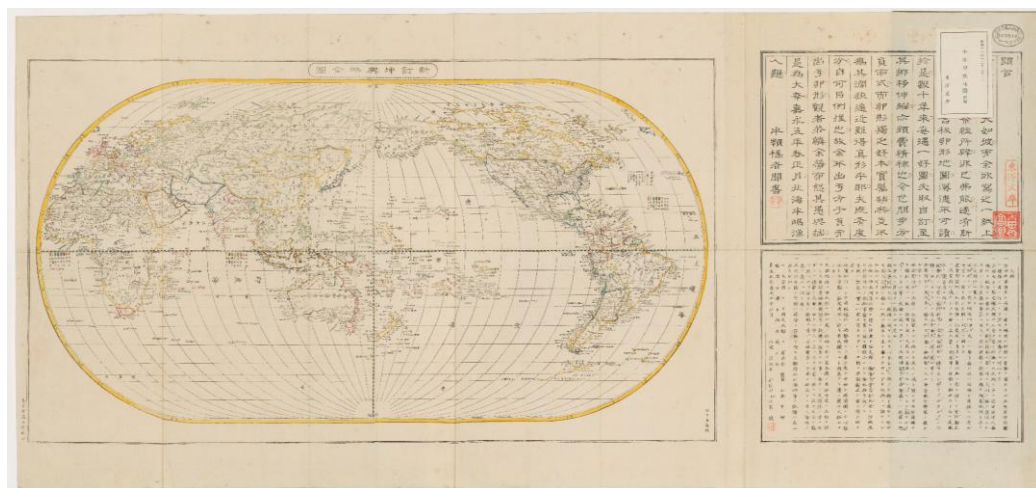
中国で刊行されてすぐ日本に伝来した『坤輿万国全図』は日本でどのように受容されたか。

江戸時代の日本ではベストセラーとなる地図や地誌の刊行や、より正確な地図を求めて描かれた多種多様な世界図が出版されていった。その背景とは？



IV. 『地球万国山海輿地全図説』初出展

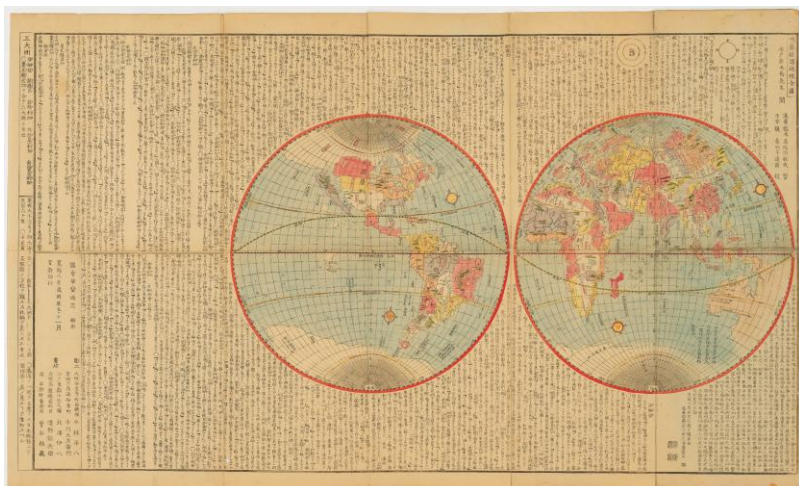
長久保赤水 1785（天明5）年頃か
長久保赤水（1717～1801）は、日本で初めて経緯線を入れた『改正日本輿地路程全図』を刊行した地理学者です。本図は『坤輿万国全図』を参照して描かれた「マテオ・リッチ系世界図」の一つであり、その普及に最も貢献して江戸末期まで庶民に親しまれ、およそ50種類もの改訂版や模倣版が作られました。解説には、リッチ図をつなぎ合わせて縮小し、木版出版して広めた旨が記されています。



V. 『新訂坤輿略全図』初出展

新発田耘（柴田収蔵）1852（嘉永5）年

『坤輿万国全図』系統の「卵形世界図」は江戸時代の主流でしたが、19世紀には記述の古さが目立つようになり、知識人層の間では「両半球図」や「平方図（メルカトル図法）」が主流となっていました。こうした中で作者は、精密な卵形図が存在しない現状を打開すべく本図を制作したと序文に記しています。さらに序文には、オーストラリアやニューギニアなどの無数の島々を総称して「オセアニア」と呼ぶようになったことなど、世界情勢の変化が細かく記述されており、当時最新の海外情報を把握していたことがうかがえます。



VI. 『囑蘭新訳地球全図』初出展

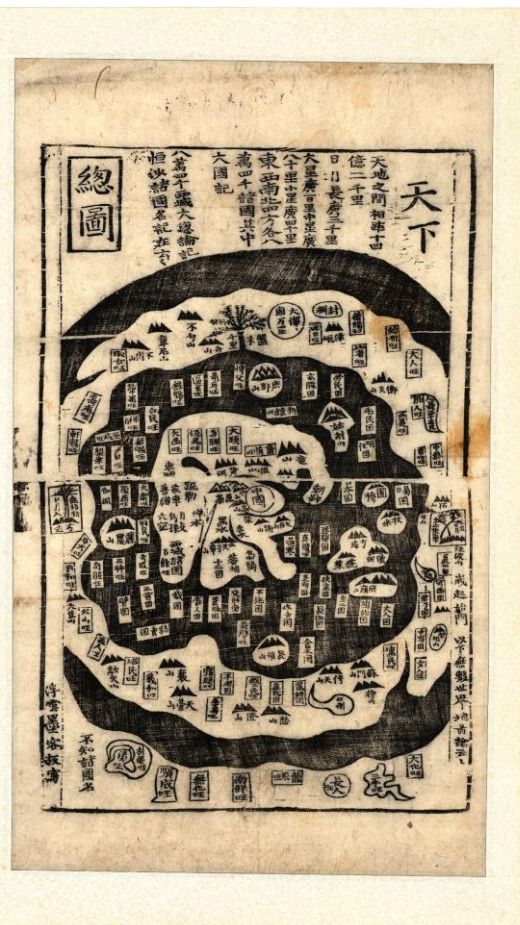
橋本宗吉 1796（寛政8）年初摺版

日本における図のような「両半球図」は、18世紀末の寛政期には江戸の町中でも広く市販されていたようです。本図には「島」としてのカリフォルニアや、この当時既に消されることの多くなっていた南方大陸「メガラニカ」が描かれています。本図に先行する司馬江漢の図において半島とされるカリフォルニアが島になっていることから、江漢より古いオランダ製地図を参照したと考えられます。校閲に長久保赤水を迎えた点には、著名人の知名度を活かした当時の販売戦略が窺えます。

Section 4

中・韓の伝統回帰と西洋世界地図の発展

清代中国での世界地図知識の断絶や、清、朝鮮半島における伝統的世界像の再構築と、実証的な西洋最新地図技術の発達との対比をご紹介します。



VII. 『天下図』初出展

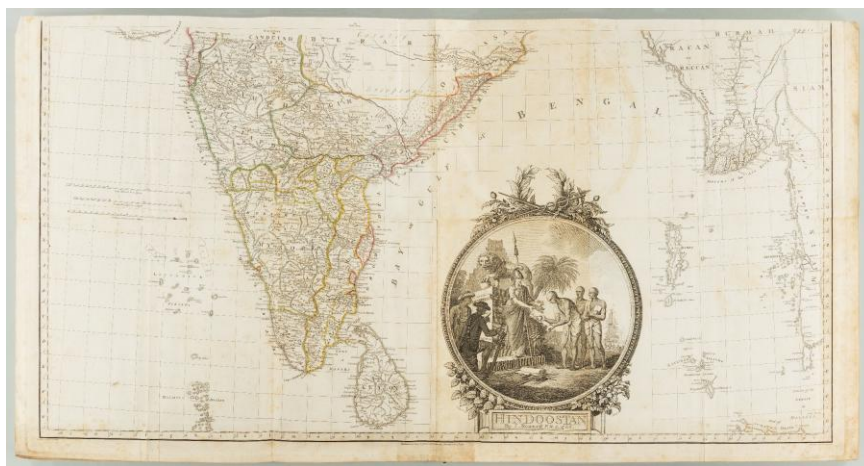
18-19世紀（李氏朝鮮）頃

本図は中国、朝鮮、日本の図などが描かれた地図帳の内の一図で、世界地図です。円形を描く構図には西洋地図の影響が見られる一方、中央の大陸には中国をはじめとした実在の地理に加え、伝説上の地名も多くみられます。17世紀には西洋の地図・地理情報が流入する中で、時代に逆行するように朝鮮の伝統的思想を反映して独自に生み出された本図は、17世紀後半から19世紀前半の朝鮮で、刊本や写本によって盛んに製作されました。

VIII. 『ヒンドウスターン（ムガル帝国）地図集報告書』

ジェイムズ・レンネル 1783年 ロンドン刊

著者はイギリス東インド会社に仕えた海軍将校であり、また「海洋学の父」と呼ばれる地理学者です。ムガル帝国ことインド（別名ヒンドウスターン）の植民地支配を本格化させたイギリスにとって、正確な地図は軍事的にも統治的にも重要なものでした。著者は、初代ベンガル測量局長時代に初の実地測量に基づく正確なインド地図を作成し、帰国後それらの地図や報告書、『アクバル会典』などのインド側の文献資料を集大成して、インド全体の地図と地理情報をまとめた本書を著しました。



会期中のイベントなど

<ミュージアム講演会>

◇10月18日（日） 海田 俊一氏（IMCoS日本代表・古地図コレクター）
「坤輿万国全図から長久保赤水の世界図へ」

—江戸後期の庶民の世界観—

◇11月21日（土） 高橋 公明氏（名古屋大学名誉教授）

「『坤輿万国全図』のなかの海域世界」

—マテオ・リッチと李之藻の対話—

◇12月19日（土） 大澤 顯弘氏（学習院大学教授）

「日本の中国地図に与えた中国史書の影響—龍門はどこにある？」

※演題は変更となる可能性があります。

※お申込み方法等、詳細は順次ホームページでご案内します

※その他イベント多数実施予定

<ミュージアムショップ>

九州に拠点を置く **Map Design GALLERY** の地図グッズの一部を限定販売！



広報用画像のお申し込みについて

<画像使用全般に関してのご注意>

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後はデータの廃棄をお願いいたします。
- 企画展名、会期、会場、画像・クレジット（所蔵先）は必ず記載してください。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施し、「画像の無断転載を禁じます」旨を表記してください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを担当者にお送りください。
- 掲載・放送後は必ず掲載紙（誌）、同録DVDを担当者までお送りください。

<広報画像クレジット一覧>

- （1点のみ掲載の場合）公益財団法人東洋文庫蔵
- （2点以上掲載する場合）すべて公益財団法人東洋文庫蔵 を必ずご記載ください。

<広報用画像一覧>※画像は本文をご覧ください

番号	クレジット
☐ I	『一般地理学』セバスチャン・ミュンスター編1545年 バーゼル（スイス）刊
☐ II	『仏祖統紀』僧・志磐撰 13世紀成立、1682（天和2）年刊
☐ III	『坤輿万国全図』マテオ・リッチ 1602年成立、1604以降（清代）写本
☐ IV	『地球万国山海輿地全図説』長久保赤水 1785（天明5）年頃か
☐ V	『新訂坤輿略全図』新発田耘（柴田収蔵）1852（嘉永5）年
☐ VI	『啁蘭新訳地球全図』新発田耘（柴田収蔵）1852（嘉永5）年
☐ VII	『天下図』18－19世紀（李氏朝鮮）頃
☐ VIII	『ヒンドウスターン（ムガル帝国）地図集報告書』ジェイムズ・レンネル 1788年 ロンドン刊
☐	メインビジュアル

上記資料画像を広報素材として提供いたします。
下記のURL、またはQRコードよりお申し込みください。

URL： <https://forms.gle/35SPFE8oBzsYWLof8>

QRコード：



（TEL）03-3942-0328 （E-mail）shinoki@toyo-bunko.or.jp 担当者：普及展示部 篠木

2026年10月7日（水）～2027年1月17日（日）

一般 1000円 65歳以上 900円 大学生 800円 高校生 700円 中学生以下 無料

10時～17時（入館は16:30まで） 火曜休館（祝日の場合は翌平日） 2026年12月28日（日）～2027年1月2日（金）

東洋文庫ミュージアム 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21 <https://toyo-bunko.or.jp/>

All exhibits with English explanations ※記載の予定は変更となる場合がございます。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。



東洋文庫
ミュージアム
TOYO BUNKO MUSEUM